

健康通信

全身性エリテマトーデスを知っていますか？



腎臓内科部長医師

浦濱 善倫

膠原病とは、共通する特徴を持った病気の総称で、関節リウマチ

など20ほどの病気が含まれます。原因や病気の成り立ちについてはまだ十分に解明されていない病気、いわゆる難病と言われています。感染などの外敵を攻撃して身を守るための免疫システムの異常によって、自分自身を攻撃対象と認識してしまい、さまざまな臓器に炎症を起こす病気―自己免疫疾患―の代表格です。

全身性エリテマトーデスとは

膠原病の1つ「全身性エリテマトーデス」は比較的患者数の多い病気で、他の膠原病とは違い20〜30歳代の若い女性に発症しやすいのが特徴です。発症のきっかけとして日光（紫外線）を浴びたことやストレス、妊娠出産、薬の使用、ウイルスや細菌感染などが知られています。

どんな症状が出るか

典型的な症状は、鼻から両頬にかけて現れる「蝶のような形の赤い発疹（蝶形紅斑）」で、かゆみなどはありません。他に「多関節痛」や「39℃程度の発熱」、寒冷刺激などにより指先が白くなる「レイノ現象」がよくみられます。

全身性という病名のとおり、全身のさまざまな臓器に障害を起しやすい、特に「腎炎」から「腎不全」をしばしば起こします。他にも「胸膜炎」「心膜炎」「出血しやすい」といった症状も起こります。脳の血管の炎症から「意識障害」などの神経症状を起こすこともあります。

治療法は？

早期のうちに医療機関を受診して、臓器の病変が進行する前に治療を始めることが大切です。全身

性エリテマトーデスの治療では、特にステロイドの飲み薬の効果が高いことが多く、この薬が使われるようになって、50%以下だった5年生存率は90%以上と大きく改善しています。免疫抑制剤は、ステロイドだけでは効果が十分でない場合に併用されます。ステロイドは長期的に使用すると骨を悪くするなど副作用があります。そのため近年では複数の薬を組み合わせるステロイドを減量する治療法が広まっています。当院でも、新しく保険適用になった免疫抑制剤や免疫調整剤、生物学的製剤と言われる注射剤などを使用する治療をすすめています。